とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	あそか保育園
日時	令和７年10月

1，活動テーマ

＜テーマ＞

1歳児　　・秋の自然物に触れる

＜テーマ設定理由＞

・季節が変わり、秋ならではの木の実や果物などを目にすることが増えたので、実際に見て触れて感じる経験ができればと思った

2，活動スケジュール

・いがぐりを見る、いがをむいて中の栗を出す
・秋の草や葉に触れて、感触を味わう

3，活動のために準備した素材や道具、環境設定

・いがぐりは保育士と一緒に見たり触れたりする
・ススキやねこじゃらしなど身近な草や葉を集めておく
・いつでも目に入る場所に飾り、興味を持てるようにする

4，探究活動の実践

＜活動内容＞

・いがぐりを見る→いがをむいて中身を見てみる
・身近な秋の草や葉に触れて思い思いに感触を味わう

＜活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり＞

〇いがぐり

・指でそっと触れてみようとする子どもがいる
　保育士：「チクチクして痛いよ」
　子ども：「痛い？」「チョンしてみる」
　　「チックン（注射）みたい」

・葉や枝は痛くないとわかり触れてみる
・いがをむいて中身を見てみる
　保育士：「何か出てきたよ。これ何だ？」
　子ども：「どんぐり？」「くり？」
・いがぐりとは違い痛くないことに気付き、握ったりにおいをかいでみる子どももいた

〇すすきやねこじゃらし
　子ども：「フワフワしてる」
　　「白いね」
・ねこじゃらしに興味を持ち、握ったりちぎろうとする

・折れずに曲がり、柔らかい感触に不思議そうな表情を見せる様子もあった
・友達と共有しようとする
　子ども：「触ってごらん」
　子ども：（鼻の下にあてて）
　　「おひげ」

5，振り返り

＜振り返りによって得た保育士の気づき＞

・歌や手遊びの中には出てくるが、いがぐりや栗はなかなか見たり触れたりする機会がないので、貴重な経験になったと思う。色や形など見て気付くこと、実際に触れて気付くことなど、子どもの感じ方などが広がっていることを感じた。触れたいという意欲も増しているように思う。秋は木の実や落ち葉など自然物が多くまた変化も見られるので、子どもの気付きがより深まるのではないかと思う。同じ目線で感じる活動をしていきたい。